



鳥取県立倉吉東高校同窓会

# 関西鴨水会会報

第5号

発行人 山本康夫

## 4年ぶり開催の総会を振り返って

関西鴨水会会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

昨年、立光前会長から会長を引き継ぎました山本です。

去る6月25日に道頓堀ホテルにおいて、4年ぶりに総会を開催することができました。昨年12月から新体制での役員会を重ねて準備を進め、当日は、倉吉から藤井鴨水会会長、母校の福光校長先生、広田倉吉市長、また各地から多数のご来賓も含め、約60名ものご参加をいただきました。

あちらこちらで旧交を温め、笑い声に包まれた楽しい会となりました。

ご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

コロナが5類となりコロナ前の日常に戻りつつありますが、新たな変異株も出現しており油断はできません。

何卒ご自愛の程お祈り申し上げます。

次回は来年6月23日に道頓堀ホテルにて開催予定です。

今回ご参加いただけなかった方も含め、多数の皆様のご参加をお待ち申し上げます。



山本康夫会長

## 総会概要紹介

### ①総会に先立って恒例の特別講演がありました。

今年は「地域の熱意、つないで形に～小鴨の「宝」、次代へ伝える（太一車の発明 中井太一郎）」と題して、「小鴨の人物誌・中井太一郎」作成委員会事務局長・北村秀徳様よりご講演いただきました。

中井太一郎翁は天保年間、現在の倉吉市中河原の大庄屋に生まれ、稲作において、苗を等間隔に田植えする作業を容易にする「田植え定規」の考案により稲の収穫量を増やすことに成功しました。

田植えの後、四つん這いになっての除草作業はお百姓さんにとってはとてもきつい作業でした。太一郎翁は研究と実験を重ねた末、立位で押すだけで除草できる回転式除草器「太一車」の発明に成功、広く普及させ、日本の農業発展に大きく貢献しました。

倉吉の地にこのような先達が居られたことは大いに誇りとするところであり、大変感銘を受けました。今日であれば日本農業賞大賞に匹敵する偉業であると言えます。



北村秀徳様と温子夫人

### ②総会では、役員人事、規約の改定、会計報告の3議案が審議され、全て承認されました。

(詳細は4面をご参照ください)

### ③来賓の代表として、藤井武親・鴨水同窓会長、広田一恭・倉吉市長にご挨拶をいただき、その後、全員で記念写真を撮影しました。



藤井会長



広田市長



2023/06/25

④ 総会への新規参加者紹介のあと、最年長となる昭和27年卒業の滝川佳須美さん、平田昌三さん、村岡志朗さん、西村憲一さんによる乾杯のご発声により懇親会が始まりました。



⑤ 懇親会冒頭、来賓の皆様よりご挨拶いただきました。



鳥取県関西本部  
高務裕子本部長



大阪鳥取県人会  
川島清春会長



東京鴨水会  
倉都康行会長



東海鴨水会  
可世木博事務局長



野球部 OB 会  
玉川顕会長

⑥ 懇親会の中盤、倉吉東高校・福光浩校長より「国際バカロレア」認定を中心に倉吉東高校の近況をご説明いただきました。

「国際バカロレア (IB) 」とは、スイスの「国際バカロレア機構」が認定したグローバル化に対応できる人材の育成を目的とする教育プログラムです。本年3月時点で160の国や地域の5,600校で実施されており、倉吉東高校は山陰地方初の認定校となりました。このプログラムは、高校2年生から行われ、英語と数学の授業はすべて英語で実施されるのに加えて、そのほかの授業も生徒がそれぞれテーマを決めて調査や研究を行うものが多く、一般的な授業で使う教科書は使用しないといった特徴があります。

プログラムを修了し、世界共通の試験で優秀な成績を修めると、世界各国の大学入学資格を得ることができます。現在、倉吉東高校は1学年の定員200名、5クラスという編成ですが、2年次と3年次は文系、理系5クラスおよびIB系 (文系・理系) 1クラスに分かれて生徒のキャリア形成を図ります。



福光校長



楽しい時間はあっという間に過ぎ、最後は「校歌」と「ふるさと」を全員で大合唱してお開きとなりました。

## みなさんから元気の出る近況報告をいただきました（出欠連絡ハガキより）

| 卒年   | 氏名(旧姓)     | 近況報告   |
|------|------------|--|
| 昭和24 | 西岡 東平      | 昨年暮れより老人ホームに入所しました。元気です。   |
| 昭和27 | 西村 憲一      | 逢いたい人には逢いたいと思ったときに逢っておきたいな。いつかは来ないかもしれないから。  |
| 昭和27 | 本田(蔵本) 巍   | 4月に両目の白内障を手術した。色鮮やかな視界は別世界のようでした。極彩色の極楽浄土から、ちょっと早い内覧会の招待かも知れんと思ったりする。  |
| 昭和27 | 松本(斉木) 美智子 | 今のところ元気で生存しています。   |
| 昭和28 | 西村 謙之助     | 趣味の風景写真撮影の他は晴耕雨読。元気ですが家族の介護で出席できません。盛会を祈ります。   |
| 昭和30 | 石川 準一      | コロナで4年振りの総会、ご苦労さんです!!お世話になります。   |
| 昭和30 | 金田 治也      | 大阪日日新聞掲載「集健行政医の体験」と「我が東大山平野」を出版しました。   |
| 昭和30 | 金本 久朗      | 年齢の為か出かけるのが面倒に思われ、自分でも嫌になる事があるような状態です。悪しからず。   |
| 昭和32 | 佐藤(杉本) 明子  | いつお迎えが来てもよい齢ですので少々迷いましたが、4年ぶりの会となり、会長も新しくお引き受け下さった方なので参加を決心しました。   |
| 昭和33 | 枇杷 絃一郎     | おかげさまで元気に過ごしています。地域の歴史や芸能のボランティアにかかわっています。   |
| 昭和34 | 中井 恭平      | 2年前に妻が亡くなり一人暮らし。猫2匹が癒しとなっています。   |
| 昭和34 | 音田 克幸      | 歩行に不自由をしており遠出を控えた生活をしております。  |
| 昭和34 | 内藤(永見) 忠義  | 3年前に膝の手術をしまして現在リハビリに励んでいる毎日です。   |
| 昭和34 | 小原 英文      | いつもおせわになり、ありがとうございます。  |
| 昭和36 | 音田 武敏      | 80の大台を進行中です。日課としては水泳500m。月一度のゴルフプレーを軸に健康維持に努めています。長生きレースに残れるように頑張っていきます。鴨水会の発展を祈願しています。  |
| 昭和37 | 河井 昌治      | ふる里、母校とのつながりは何らかの形で大切にしたいと思っています。  |
| 昭和37 | 山根(蔵増) 和弘  | 惚け防止の為?月2回のゴルフと数独(ナンプレ)を楽しんでおります。  |
| 昭和39 | 山本 幸正      | 現役生活から完全にリタイアして2年が経過し、ゆったり時空を自然とともに過ごしています。  |
| 昭和40 | 立 光 斉      | 皆様とお会いできるのを楽しみにしています。関西鴨水会がますます発展しますよう皆様のご協力をお願いします。   |
| 昭和40 | 岩田 幸夫      | 自営業ですが現役で頑張っています。皆様に宜しくお伝えください。  |
| 昭和40 | 福井 秀明      | 河村日下の筆名で古代史の本をミネルヴァ書房からすでに4冊出版。現在5冊目を準備中です。  |
| 昭和40 | 光田 恵美子     | 元気にしています。  |
| 昭和41 | 久保田 律子     | 今年も鳥取県産の根付らっきょうをスーパーで見つけ漬けました。   |
| 昭和41 | 原 長生       | 昨年6月の定期総会で大阪市教職員退職者会会長職(2期4年)を退任しました。今後は相談役として大阪市教育現場の支援活動に取り組みたいと思います。  |
| 昭和41 | 桑原 久枝      | 鳥取県を離れ紀南に住んで半世紀になります。故郷への思いは強まるばかりです。  |
| 昭和41 | 渡辺 亘       | 学習支援員として毎日小学校へ通っています。子どもたちに元気をもらっています。今年度で終了です。  |
| 昭和42 | 岡本 重正      | 何かとご苦労様です。   |
| 昭和43 | 岡本 美都夫     | 4年ぶりの開催楽しみにしてます。最近は大ランド・ゴルフにはまっています。週5日は練習。5月らっきょう、6月田植え、10月稲刈りとコツコツと日銭稼ぎ運動。健康で生きてます。  |
| 昭和43 | 衣笠 陽一      | 未だフルタイムで働いています。もっぱら山登り、ウォーキング、油絵です。  |
| 昭和43 | 加藤 幸洋      | 令和元年以来の関西鴨水会総会のご盛会を祈念いたします。兵庫県北部、豊岡市出石町で地域活動に田んぼ・畑にと元気に過ごしております。田植えは5月13日(土)に無事終わり、今年は鳥獣害対策ができて、毎日たくさんのおいしいイチゴをいただいています。おまけにテンも捕獲しました。 |

| 卒年   | 氏名(旧姓)     | 近況報告  |
|------|------------|---|
| 昭和44 | 美 甘 克 明    | コロナにも負けずPCR陽性にもならず元気に働いております。   |
| 昭和45 | 福 井 清 司    | 健康のため定年後、吹田市内の駐輪場で働き、趣味のグランドゴルフにも頑張っています。幹事さま、ご苦労様です。                         |
| 昭和46 | 濱田(戸崎) りつ子 | 4年ぶりの総会ですね。前回地元の「利七さん」の講演があったので初めて出席しました。今回も「中井太一郎さん」全く知らなかったのが楽しみにしています。     |
| 昭和47 | 吉 田 輝 夫    | Good Field Tennis Academyを建設中。(Good Field=「吉田」)<br>来年1月からテニスを通したジュニアの育成を始めます。 |
| 昭和47 | 阿路川(定常) 祐子 | 野菜や花を育て、時々ボランティアもして一日一日をなんとか過ごしております。お世話の方、いろいろとご準備など大変なことと思います。ありがとうございます。   |
| 昭和50 | 木 山 智 道    | 幹事長、重責お疲れ様!当日にぎやかな場になる事を祈ってます!  |
| 昭和50 | 堀 尾 雅 俊    | 新型コロナに振り回された3年間でしがみさんと再会できることを楽しみにしております。この3月で44年間のサラリーマン生活を卒業しました。           |
| 昭和53 | 市 橋 清 美    | 富士通(株)勤務、嘱託4年目。<br>旅行が趣味で国内全都道府県を車で制覇。スイスへも今月旅行しました。                          |
| 昭和55 | 堀 尾 和 俊    | 昨年の秋に転勤で22年振りに東京から京都に戻ってまいりました。   |

## 以下の議案について、承認されました。

### 【1号議案】

#### 2023年度 関西鴨水会役員選任

| 役職    | 氏名     | 卒年   |
|-------|--------|------|
| 会 長   | 山本 康夫  | 昭和50 |
| 副 会 長 | 佐々木 進  | 昭和47 |
|       | 堀尾 雅俊  | 昭和50 |
|       | 陶山 哲也  | 昭和51 |
| 参 与   | 谷川 喜代行 | 昭和28 |
|       | 山本 幸正  | 昭和39 |
| 顧 問   | 立 光 齊  | 昭和40 |
| 常任幹事  | 濱 根 準  | 昭和29 |
|       | 三 好 修二 | 昭和36 |
| 幹 事   | 久保田 律子 | 昭和41 |
|       | 木 山 智道 | 昭和50 |
|       | 安 田 浩章 | 平成14 |
| 会計幹事  | 原 長 生  | 昭和41 |
| 会計監査  | 仲倉 由紀子 | 昭和47 |

### 【3号議案】

#### 2022年度(令和4年度) 関西鴨水会収支決算書

自：2022年4月1日  
至：2023年3月31日

| 項 目         | 金額(円)   | 内 容  |
|-------------|---------|--|
| 前年度繰越       | 620,707 |  |
| 収入の部        | 雑 収 入   | 7 銀行利息   |
|             | 計       | 7  |
| 支出の部        | 近況報告    | 23,398 ハガキ、切手<br>(総会・役員会中止案内、<br>近況報告依頼、印刷費、<br>役員連絡、郵送費等)       |
|             | 運 営 費   | 10,000 東京鴨水会総会出席   |
|             | 事務・通信費  | 21,353 ハガキ、切手(役員会案内、<br>ラグビー募金活動案内)、<br>新規口座開設費(旧口座より<br>振込、送料等) |
|             | 印 刷 費   | 11,550 長3封筒印刷  |
|             | 計       | 66,301   |
| 差引残高(次年度繰越) | 554,413 |  |

### 【2号議案】

#### 関西鴨水会規約の改定 → 改定後の新規約を会報送付に同封



## 編集後記

6月の総会のあとに印象的な出来事が続きました。7月大相撲名古屋場所での伯桜鵬の活躍。8月台風7号による「激甚災害」に指定されるふるさとの被害。観測史上最も暑い夏。9月阪神タイガースの18年ぶりのリーグ優勝。そしてラグビーワールドカップでの日本代表の健闘。

来年の総会時には「左肩のけがを克服した伯桜鵬の活躍」が話題になっているかもしれません。終了後には「楽しい総会だった」とみなさんに喜んでもらえるよう、引き続き役員一同工夫していきたいと思ひます。みなさんのご参加、よろしくお願ひします。  
(陶山哲也)